
僕と精霊の・・・冒険？

春夏秋冬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と精霊の・・・冒険？

【Zマーク】

Z2359BA

【作者名】

春夏秋冬

【あらすじ】

なんか时空の裂け目に入ってしまったらしい。

着いた先はなんと異世界！もしかしたら宇宙のどこかの違う星かもしれないが・・・。そこには魔法があつて精霊がいた。なんか精霊と契約してしまった。

初めて書くので変なところには目をつぶってください。

プロローグ（繪畫部）

初めて書かね。

いろいろ覗きしことに悩むと聞こね。

温かい皿で照らしてくださ。

プロローグ

「 まざめだ……・・・」

そんな事をつぶやいて男が起きた。

私はびんだけ寝てるんだと思いながらその男を見た。黒髪黒目のその男は身長が高くすらつとしていた。

しかし、弱弱しい感じはせず引き締つていで何らかの運動をしているものだと思われる。

「……………俺は確が学校に来てるから……」

「記憶せぬ。・・・と思ふ」

聞き取れたのはそれくらいだがいろいろつぶやいている。そして男は立ち上がり体が思い通りに動くか確認している。体の確認が終わつたのか周りを見ている。
といふかいつまで気づかないんだろう。
いい加減気がついて欲しい。

しがし男は、

「うつわどんだけ木でかいんだよ」

「神殿か・・・なんか神々しいな」

「どうか腹減つたな・・・」

なんてことわざひぶやこてこ。
その間もせよねきよぬいぬいこてこ。

もうそろそろ声をかけてもいいんじやないか？

よしかけよ。*

やつ細ひて口をひらいたといで、

「あの、声かけたほうがいいですかね・・・」

という風に声をかけてきたので私は口を開けかけた状態で止まつてしまつた。

「なんかあまりの状況に頭がついてこなくてですね」

「無視しようと思ったのではなくてですね」

• • • • • • •

なんてことを言つているが私はい息をおもいつきり吸い込み。

「気付いていたんなら早く声をかけなさいよ-----！」

「声かけてくれないと寂しいでしょ？」「うがー！」

「ノルマニカ」

それから30分くらい怒られました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2359ba/>

僕と精霊の・・・冒険？

2012年1月5日23時46分発行